

《中学生の部》

優秀作（国務大臣・国家公安委員会委員長賞）

宮崎県延岡市立南浦中学校 学びの多様化学校分教室「熊野江教室」

2年 小田原 みろく

右、左、右っ！！

「右、左、右っ！よく見て、よし進め！」祖父と一緒に散歩する時に必ず言われた言葉だ。私が幼い頃から優しくて大好きな祖父とよく近所を散歩をした。いつも散歩する時は私の手を力強くギュッと握りしめていつもの優しい祖父の顔と違って真剣で少し怖いくらいの表情で歩く祖父との散歩は決して和やかな感じではなくどこかピリッとした緊張が漂っていた。特に横断歩道の前に来ると「右、左、右ッ！しっかり見て！」と大きな声で言われ、「手を上げて！」と手を上に引かれてしまう。そして大きなトラックが近くを通る度に痛いくらい私の手を握りしめて立ち止まってしまう。この祖父の行動が不思議で仕方なかった。

私が小学校高学年になると散歩する機会も減りたまに誘われても理由をつけては断っていた。そんなある日、親に言われ嫌々ながらも久しぶりに一緒に散歩した時のこと、近所の横断歩道の前で「右、左、右ッ、しっかり見てね！」といつもの大きな声で言われ私は思わず「分かってる！大丈夫だから！」とつい言い返してしまった。祖父の顔を見るのも怖くて何も話さず二人で家に帰った。

そんな祖父が今年の四月に五年間の闘病の末亡くなった。日に日に弱くなって呼吸も難しい中、祖父が私に「みろくは良い子じゃ、また散歩しような」と私の手を弱々しい力で握りながら言った。「うん」と私は答えるのが精一杯だった。それが祖父との最期の会話になった。大きな悲しみの中、葬儀も終わり仏壇ににっこり笑う祖父の写真が置かれた。その隣に小さな女の子の写真が並べられた。その写真の存在は以前から知っていたが気にも留めていなかった。思いきって父に尋ねてみると父の妹つまり祖父の長女和子さんの写真だと教えてくれた。和子さんは二才半の頃近所の横断歩道を歩行中に進入してきた大きなトラックの車輪に巻き込まれ亡くなっと和子さんの写真を見ながら父が話してくれた。その話を聞いたとたん、私の心の中で祖父のあの「右、左、右ッ！」という大きな声がよみ返り大きなトラックが近くを通る度に立ち止まっていた行動の意味が分かった気がして涙がポロポロと止まらなくなった。そして「じいちゃん、ごめんね」と写真の中で笑う祖父に心から謝った。なぜ祖父はその話を私にしてくれなかつたのだろう。もしかすると、祖父の中で四十八年経っても和子さんの死を受け入れられずにいたのかもしれない。私と

和子さんを重ね合わせていたのかもしれない。

「右、左、右ッ！よく見て！よし進め！」

祖父の声が私の中で響く。

「うん。気をつけるね、じいちゃん。大好きだよ、じいちゃん。」